

令和七年 十一月講習会 国語 第二回オープンテストに向けてがんばろう

□ 次のー線部の漢字に読みがなをつけ、カタカナ部分を漢字に直しなさい。

① カイ|ガン|を散歩する。 ② 食べたものがショウ|ウカ|される。 ③ テン|コウ|が急変する。

④ セイ|セキ|が上がる。 ⑤ フク|ザツ|な気持ち。 ⑥ ドウ|ワ|を読んで聞かせる。

⑦ カ|ガミ|を見る。 ⑧ 入室をキョ|カ|する。 ⑨ ツ|ゴウ|が悪くなる

⑩ 城を築|く。 ⑪ 友達を家に招|く。 ⑫ 類似|品|が多く出回る。

⑬ 野菜の価|格|が高い。 ⑭ 大きな規|模|の工事。 ⑮ 大雨で河|川|がはらんする。

⑪	⑥	①
⑫	⑦	②
⑬	⑧	③
⑭	⑨	④
⑮	⑩	⑤

□ 次の各文の主語と述語を抜き出しなさい。ただし無い場合は×と書くこと。

① 明日の 天気予報は 予想以上の 秋晴れです。

② なんて 強いんだ、 あの 優勝した 選手は。

③ たんじょう日に 父が 克ってくれた 本は とても おもしろい。

④ 小さな 子どもだって そのくらいのことは わかる。

⑤ 公園には 大きな 犬を 連れた 人が いた。

⑥ 今日 母と いっしょに 東京に 出かけた。

⑦ 外国車だね、君が 乗っている 自転車は。

⑧ 今年の 冬休みは 大好きな スノボードを するつもりだ。

⑦ 主語	⑤ 主語	③ 主語	① 主語
述語	述語	述語	述語
⑧ 主語	⑥ 主語	④ 主語	② 主語
述語	述語	述語	述語

三 次の一線部はどのことばにかかっているか書き出しなさい。

- ① ちょうど 駅のバス停に バスが 待っていたので 大急ぎで 乗り込んだ。
- ② 急に 横に いた 男の子が 足を かかえて 泣き出した。
- ③ 明日には きつと 強い 雨も 風も やむだろう。
- ④ にこにここと 笑う 赤ちゃんの 笑顔に だれもが つい 笑顔になった。
- ⑤ 週末に テストが あることを 母は まだ 知らない。
- ⑥ あれほど 私が 注意したのに、友人は 遊びに 出かけた。
- ⑦ 空に かかった 大きな 虹が とても きれいだ。
- ⑧ もし、明日 雨が 降ったら、野球の 試合は 中止だ。

⑦	⑤	③	①
⑧	⑥	④	②

④ ー線部のことを敬語に直すとき、適切なものを後から選んで○で囲みなさい。

- ① 部屋の掃除はわたしがします。(されます いたします なさいます)
② この辞書をあなたにやろう。(くださろう いただく さしあげよう)
③ 社長さんには一度会ったことがある。(お会いになった 会われた お目にかかった)
④ 山田さんの言うことをしっかりと聞く。(おっしゃる 申し上げる 口にする)
⑤ 先生が来たから早く席につきましょう。(参った いらっしゃった 来たらしい)

⑤ 次の①～⑤の各文の()にあてはまることを下のア～オの中から選んで記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二回使えません。

- ① () うそをついてはならない。
② () 優勝争いをするとは思わなかった。
③ () かれ木に花が咲いたようだ。
④ () 失敗しても、最後までやりとおす。
⑤ 試合が中止だなんて() 予想していなかった。

ア たとえ イ よもや ウ まるで エ まったく オ 決して

⑥ 次のー線部のことと同じ使い方をしているものを、後のア～オの中からひとつ選んで、記号で答えなさい。

- ① 公衆電話の使い方がわからない。 ② 弟は一年で十センチばかり背がのびた。

- ア 犬の座ったざぶとんを片付ける。 ア よく働いたから少しばかり休もう。
イ このペンはわたしのだ。 イ 彼ばかりほめられている。
ウ わたしの書いたのはこれだ。 ウ 子ネコちゃんは泣いてばかりいる。
エ 彼の行動をほめたたえた。 エ 彼はいつもサッカーばかりしている。

- ③ 日本酒は米から作られている。 ④ あまりの痛さに声をあげて泣いた。

- ア 友人が駅から出てきた。 ア みんなに「おはよう。」と呼びかけた。
イ 雨が降るから出かけるのをやめよう。 イ さびしさに気持ちがしずむ。
ウ 父から昨日のニュースについて聞いた。 ウ 先生にがんばれとはげまされた。
エ 紙は木からできている。 エ となりの空き地に家が建った。

①	②	③	④
---	---	---	---

【七】 次の四字熟語のひらがなを漢字に直し、意味をあとから選んで記号で答えなさい。

- ① 以心でん心 ② 完全無けつ ③ 大き晩成 ④ 自きゆう自足 ⑤ 空前ぜつ後

ア 必要なものを自分でまかない足りるようにすること。
イ ほとんど助かる見込みのない命がかろうじて助かること
ウ 非常にめずらしいこと。
エ 口に出さなくても気持ちが伝わること。
オ 注意をおこたれば必ず失敗をまねくこと。
カ 欠点や不足がまったくないこと。
キ 人間がもっているさまざまな感情。
ク 大人物となる人間は、ふつうより遅く大成すること。
ケ たくさんのものが、それぞれさまざまに違うこと。

①	意味	②	意味	③	意味	④	意味	⑤	意味
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

【八】 次の慣用句の意味を後から選んで、記号で答え答えなさい。

- ① 足が重い ② 腕が立つ ③ 舌を巻く ④ 尻に火がつく
⑤ 白を切る ⑥ 手の裏を返す ⑦ 耳が痛い ⑧ ねこの手も借りたい
⑨ 気が置けない ⑩ 胸を借りる

ア 物事が差しせまっている様子。 イ 欠点を指てきされて聞くのがつらい。
ウ 武道などにすぐれていること。 エ 気をつかわず、気楽につきあえる。
オ わざと知らないふりをする。 カ 非常に忙しいこと。
キ 行く必要があるが、気が進まない様子。 ク 時と場合によって全く態度を変える。
ケ 力の勝った相手に積極的に挑む。 コ あまりの見事さに感心し、おどろく様子。

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

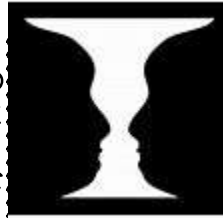
長文読解の解き方

- ① 説明的な文章では「くり返されている話題」を考える。
② 説明的な文章では「話題」「結論」「具体例」「理由」に分ける。
③ 文学的な文章手では「背景」「できごと」「心情」「性格」の四つを意識する。
④ 文学的な文章では、常に「なぜ」を考える。

たとえば・・・

自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると指摘され、なるほどそうもいえると教えられた経験は多いことだろう。

左の図は「ルビンのつぼ」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見てとることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつぼがくっきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、



白い部分はバックになってしまう。

この図の場合、つぼを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、一瞬のうちに、目からつぼの絵が消え去ってしまう。

このようなことは、日常生活の中でもよく経験する。今、公園の池に架かっている橋の辺りに目を向けているとしよう。すると、橋の向こうから一人の少女がやって来る。目はその少女に引きつけられる。このとき、橋や池など周辺のもの全て、単なる背景になってしまう。カメラでいえば、あつという間に、ピントが少女に合わせられてしまうのである。ところが逆に、その橋の形が珍しく、それに注目しているときは、その上を通る人などは背景になってしまう。

見るという働きには、思いがけない一面がある。一瞬のうちに、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることができるのである。

＊ この文章で、くり返されている話題は「見ること」だね。

＊ 指示語の問題、例示の問題を解いてみよう。

問一 「そうもいえる」は何を指しているのか。

問二 「ルビンのつぼ」は何を表す例だろう。

問三 「このようなこと」は何を指しているか。

問四 「それ」は何を指しているか。

＊ 結論について

問五 「見る」について筆者が述べている結論を二文で探し、はじめの一文の五字を

答えなさい。